

河川事業再評価審査表

河川名		事業名	統合河川整備事業	事業区間	京都市伏見区桃山町大島地先～宇治市五ヶ庄北ノ庄地先	
事業概要	事業目的	弥陀次郎川は、宇治市北東部の市街地を西に流れ、途中小弥陀次郎川を左岸に合わせ、下流部で府道、鉄道等と交差した後、宇治川に流入する一級河川である。流路延長は2.0km、流域面積は1.3km ² であり、全体的に急勾配で下流部は天井川となって住宅地を流下している。 弥陀次郎川では、昭和42年7月豪雨により洪水が発生し、下流部市街地が浸水による被害を受けたが、平成2年度より宇治川合流点から順次整備を進めており、現在では雲雀橋までの約140mの区間の改修が完了している。 しかし、これより上流側620mは依然天井川の形態を呈しており、疎通能力は小さく、市街化が急速に進行したことにより、ひとたび洪水が生じれば、大きな被害を受けることが予想される。				
	事業実施内容	改修延長760 m 河道掘削、築堤、護岸、橋梁等				
	上位計画における位置づけ		新京都府総合計画 社会資本整備重点計画			
	目標流量	30 m ³ /s	治水安全度	1 / 50 50年に1回程度発生する規模の降雨で生じる 洪水を安全に流下させる		
事業の進捗状況	事業採択年度	平成2年度	用地着手年度	平成3年度	工事着手年度	平成7年度
	前回全体事業費(内用地費)	31.0億円(13.4億円)	現在全体事業費(内用地費)	31.0億円(13.4億円)	H16までの投資事業費(内用地費)	7.8億円(進捗率25%)(2.1億円(進捗率16%))
	事業進捗状況		宇治川合流点から順次整備を進めており、全体計画延長760mのうち約140mが改修済みである。			
	一連の整備効果の発現状況		工事実施区間の治水安全度は向上している。			
事業を巡る社会情勢の変化等	事業目的に関する諸条件	現状での課題		家屋連担箇所での工事が必要となるため、橋梁等の付帯構造物及び仮設等に多額の費用を要する。		
		災害発生時の影響(想定氾濫区域内)				
		浸水戸数 :1,060 戸 農地浸水面積 :4.3 ha 重要な公共施設等 :鉄道、道路、学校1校等 災害弱者関連施設 :なし その他 :事業所37棟				
		過去の災害実績(昭和42年7月洪水)				
		浸水戸数 :不明 (地区全体 床上浸水8戸、床下浸水329戸) 農地浸水面積 :7.0 ha (地区全体87ha) 重要な公共施設等 :道路 災害弱者関連施設 :不明 その他 :不明				
		災害発生の危険度				
		改修目標流量に対する改修前流下能力 :0.35 ~ 0.58 改修前の治水安全度 :現況の流下能力は計画流量の3～6割程度となっており、また、天井川であることから、ひとたび洪水が起こった場合には大きな被害を受けることが予想される。				
		地域開発の状況 :市街化が進んでいる。				
		地域の協力体制 :事業の必要性も理解され、地域の協力体制も良好である。				
		関連事業との整合性の変化 :特に変化なし。				
		地域の事業に対する社会的評価 :治水安全度の向上が期待されている。				

河川名	みだじろがわ 弥陀次郎川	事業名	統合河川整備事業	事業区間	京都市伏見区桃山町大島地先 ^{ももやまちょうおおしま} ～宇治市五ヶ庄北ノ庄地先 ^{ごかしょうきたのしょう}
費用対効果分析の要因の変化	費用の変化(主要工事内容の変化、工事単価の変化等)				
	変化無し				
	効果の変化 想定被害軽減に関する指標の変化(想定氾濫区域内人口、資産の変化等) 特になし 関連する他事業の進捗状況 特になし				
	費用対効果分析の結果: B/C= 6.13 > 1.00				
事業進捗の見込み					
<p>弥陀次郎川は、平成11年度までに全体計画延長760mのうち宇治川合流点から約40m区間の改修が概ね完了しており、過去5年間でその上流100mの改修を実施した。</p> <p>今後5年間は、地域住民の協力を得ながら事業の進捗を図り、下流部でネック橋梁となっている雲雀橋の改築とその取合護岸約40mを完了させる予定である。</p> <p>なお、今後とも、引き続き、工事が促進されるよう努めたい。</p>					
コスト縮減や代替案等の可能性					
<p>弥陀次郎川は、地形的な条件、経済性及び事業の実現可能性を総合的に勘案して、「河道掘削」による改修を採用している。</p> <p>河川改修にあたっては、掘削土を築堤や他工事へ流用したり、既設護岸を取壊した殻を河床材料に再利用するなど現地発生材の有効利用によりコスト縮減を図る。また、みお筋や瀬、淵を形成するなど、河川環境にも配慮した川づくりを進めていく方針である。</p>					
総合評価(対応方針等)					
<p>本河川の未改修区間は天井川の様相を呈しており、洪水疎通能力は依然小さいままであり、流域内において市街化が急速に進行したことから、浸水発生時には大きな被害が生じる恐れがある。</p> <p>以上より、総合評価として事業を継続する必要がある。</p>					

位置図



弥陀次郎川統合
河川整備事業

$L=0.76\text{km}$